

平成14年10月30日

各関係機関の長

各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

## 病害虫防除速報第3号

1. 病害虫名 トマト黄化葉巻病
2. 作物名 トマト
3. 病原ウイルス トマト黄化葉巻ウイルス(Tomato yellow leaf curl virus : TYLCV)
4. 発生程度 やや多い
5. 病徴及び伝染方法

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間を残して黄化し縮葉となる。病勢が進行すると、頂部が叢生し株全体が萎縮する。

本ウイルスは、主にシルバーリーフコナジラミによって伝染し、管理作業による汁液伝染、種子伝染、土壌伝染及びアブラムシによる伝染はしない。

### 6. 発生状況と発令の根拠

1) 本病害は本県においては昨年2市5町で初確認され、その詳細は平成13年12月12日付け「平成13年度病害虫発生予察特殊報第1号」において発表した。本年も県平野部の圃場において昨年に引き続き発生を確認しており、その分布は拡大し、既に発病株率の高い圃場が見られる。

2) 施設栽培トマトは生育初期に当たり、この時期に感染すると激しく発病し、収穫皆無となる恐れがある。

3) 県内巡回調査におけるコナジラミ類の現在の発生は平年並であるが、各地で発生しており、今後の発生が懸念される。

4) ミニトマトにおいては被害が比較的軽いとされていたが、今年度発生した圃場においてはミニトマトについても激しい病徴のものが見られた。

### 7. 防除対策

1) 媒介虫であるシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する(表1)。

2) 発病株は早期に抜き取り、埋没処分を行う。圃場周辺に感染株を絶対に放置しない。

3) 圃場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの寄主植物となるので除草を徹底する。

4) 施設栽培では、施設開口部に寒冷紗(目合い1.0mm以下)を張り、シルバーリーフコナジラミの侵入を防止する。

5) 施設栽培では、栽培終了時にハウスの蒸し込みを行い、トマトを枯死させて、シルバーリーフコナジラミを死滅させるとともに、施設外への分散を防ぐ。

6) 疑わしい株が発見された場合は、防除所、試験場に持ち込み確認する。

表1 シルバーリーフコナジラミ登録農薬（トマト）一覧

製品名	使用濃度・量 (粉剤は散布量)	毒性	魚 毒性	使用 回数 (以内)	使用時期 収穫 前日数	注意事項
サンライトフロアブル	1,000～1,500	劇	C	2	前日	
トロン乳剤	1,000	劇	B	2	前日	
アトマイヤー-1粒剤	0.5～1g/株	普	A	1	育苗期後半	使用は両製剤で 3回まで
アトマイヤー-水和剤	2,000	劇	A	2	前日	
モスピラン粒剤	1g/株	普	A	1	定植時	使用は3製剤で 合計3回まで 蚕毒注意
モスピラン水溶剤	2,000	劇	A	2	前日	
モスピランジェット	50g/400m <sup>3</sup>	劇	A	2	前日	
ベストガード粒剤	1～2g/株	普	A	1	定植時	使用は両製剤で 合計4回まで
ベストガード水溶剤	1,000～2,000	普	A	3	前日	
フェイス粒剤	1g/株	普	A	1	育苗期後半	使用は両製剤で 合計4回まで
フェイス水和剤	3,000	普	A	3	前日	
アプロート水和剤	1,000	普	A	3	前日	使用は両製剤で 合計3回まで
アプロートE-ス フロアブル	1,000～2,000	普	C	3	前日	
オレート液剤	100	普	A	5	前日	
バリアード顆粒水和剤	4,000	劇	A	3	前日	
粘着くん液剤	100	普	A	6	前日	
(注) 平成14年度病害虫・雑草防除等指導指針を基に作成						